

【草花の部屋】

ウスベニアオイ (アオイ科ゼニアオイ属 *Malva sylvestris*)

【和名】：ウスベニアオイ (薄紅葵) 【別名】：ブルーマロウ 【英名】：common mallow

アオイ目 多年草 【原産地】：ヨーロッパ

【花言葉】：穏やか、柔和な心 【花色】：紫、赤紫、ピンク、青、白



← 写真-1 ウスベニアオイ

撮影日：2016年5月27日

撮影場所：アヴィニヨン

(フランス) 旧市街にて

撮影者：M さん

フランス南部の街、アヴィニオンを訪れた際、ローヌ川に掛かるサン・ベネゼ橋近くにある城門の片隅に咲いていました。一株のみでしたが……。それでも、綺麗な縞模様の花びらが目に入り、思わず一枚。どこからか運ばれた

た種が発芽したようです。

マロウにはたくさんの種類があり、単に「マロウ」というと南ヨーロッパ原産のウスベニアオイ (本種) のことを指すのが一般的だそうです。毎年花を咲かせる多年草で草丈は開花時で60cm～1.5mです。葉は長い軸を持ち、丸形で掌状に切れ込みます。初夏～夏に茎のつけ根近くに、紅紫色で濃い紫色の筋がたくさん入った花を咲かせます。色は花にはほのかな香りがあります。

よく似た植物にゼニアオイがありますが、ウスベニアオイの変種 (もしくは園芸種) だそうです。ゼニアオイは江戸時代に渡来し、本州以南の地域で野生化している帰化植物で、多くは市街地に自生しており、道端で見かけるマロウの花は、多くの場合ゼニアオイだそうです。とはいうもののウスベニアオイも野生化しているのが各地で確認されており、道端に生えているからと言ってゼニアオイとは限らないそうです。また、流通名も混乱していることが多く、ゼニアオイもコモンマロウの名前で呼ばれていることがあり、現在では日本でコモンマロウとして流通している苗の多くがゼニアオイのようだそうです。

ウスベニアオイの花はハーブティとして利用されており、お湯を注ぐと透きとおった青いお茶になり、レモンを浮かべるとピンク色に変色するので、大変人気があるそうです。花とともに若葉はサラダやハーブティに、葉と根は茹でて、野菜としても利用できるそうです。花の水溶液は、酸性や塩基性の溶液を加えると色が変わるので

で、理科の教材や夏休みの自由研究などで利用されることもあるそうです。

民間薬としても、咳や胃炎に効果があるとされているそうですが、妊娠中の人や何らかの食べ物にアレルギーがある人、医師の治療を受けている人は飲用・飲食を控えるか、掛かり付けの医者にご相談してから服用が望ましいそうです。

<ちょっと一言>

＊ウスベニアオイ：

葉は5～7裂し、切れ込みが深いのが特徴です。花色は淡いピンク～赤紫色で花弁は凹形、葉の付け根に1～4個が付きますが、稀に5個の花が付くこともあるそうです。

＊ゼニアオイ：

葉は浅く5～7裂した円形に近い形です。花色は濃ピンク～紫色で花弁は浅い凹形、葉の付け根に5～15個が付きます。5個以下のこともあるそうです。